

ピロリ菌とは胃の粘膜に感染する細菌で、胃・十二指腸潰瘍や胃癌などを引き起こします。すごく小さいので顕微鏡でないと見えず、多くの場合は感染しても無症状です。しかし、感染すると胃粘膜の炎症と萎縮を引き起こし、様々な病気と関連するといわれています。

ピロリ菌は知らないうちに感染していることがあるため、感染の有無をチェックし、早期に除菌することが重要です。

大事なこと

- ✓ 胃カメラ（上部消化管内視鏡検査）を受ける（症状があった場合に、検診で、気になる場合に）。
- ✓ ピロリ菌がいそうな場合はピロリ菌のチェックを受ける。
- ✓ ピロリ菌がいる場合には除菌治療（胃薬と2種類の抗菌薬を1週間のみ）を行いピロリ菌をたおす。
- ✓ ピロリ菌がいた場合は、除菌後でも胃癌のリスクはやや上がるので、定期的に胃カメラを受ける。
- ✓ 病気が進行しないと症状はでない。積極的な検査（胃カメラ、ピロリ菌チェック）をすることが重要。

- ・日本における感染者数は欧米と比較が多い（アジア、アフリカ、南米に感染者が多い）。
- ・日本において感染者数は減少してきている。感染者は高齢者に多い。
- ・東アジアのピロリ菌は強く癌化を促進するので東アジアに胃癌が多い。

- ・ピロリ感染と関連のある疾患

慢性胃炎、過形成ポリープ、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、ピロリ関連ディスペプシア

胃癌、胃 MALT リンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、小児の鉄欠乏性貧血

※ 他にも下記疾患との関連が推測されている。

慢性蕁麻疹、Cap polyposis (大腸の炎症性疾患)、胃びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫
直腸 MALT リンパ腫、パーキンソン症候群、アルツハイマー病、糖尿病 など

- ・ピロリ感染の原因

経口感染（多くは5歳以下で感染、家族内感染が多い、成人は一過性感染で終わりやすい）。

- ・ピロリ感染を疑う場合に必要な検査（下記のどれかを用いて感染の有無、除菌完了を確認する）

血清抗体検査：血液中にあるピロリ菌に対する抗体の量を測定する検査。

尿素呼気試験：お薬を飲んでもらい、ピロリ菌が分泌する尿素酵素を測定する検査。

便中抗原検査：ピロリ菌がいるかどうかを便の中のピロリ菌抗原を調べる検査。

内視鏡検査時に生検（胃の組織を一部とる）：鏡検法、ウレアーゼ試験、培養法でピロリ菌の有無を確認。

- ・ピロリ菌の治療（胃薬：プロトンポンプ阻害剤と抗菌薬2種類を組み合わせで除菌を行う）

1次治療：ポノサップ という1日分の内服薬が入ったシートを処方、内服。

（タケキャブ 1錠、アモキシシリン 3カプセル、クラリス 1錠 を1日2回朝・夕食後、1週間内服）

2次治療：ポノピオン という1日分の内服薬が入ったシートを処方、内服。

（タケキャブ 1錠、アモキシシリン 3カプセル、フラジール 1錠 を1日2回朝・夕食後、1週間内服）

3次治療：タケキャブ 1錠とピロリ菌に効果のある抗菌薬を組み合わせで、1週間内服。